

高知県立美術館の指針

2004

2004年3月

高知県立美術館は1993年11月に開館し、2003年に開館10周年を迎えたことから、今後改善すべきことを見出し一層の発展につなげてゆくために、これまでの活動を幅広く点検するための「高知県立美術館事業評価プロジェクト」を実施した。報告書に記載された「今後の課題と提言」の中の最優先事項「ミッションの明確化と戦略的経営計画の策定」を実践するために、設置目的、基本的性格、特長、過去10年間の成果と実績、環境の変化を踏まえた上で高知県立美術館の指針2004をまとめた。

1 高知県立美術館の設置目的・基本的性格・特長

(1) 設置目的

優れた作品の鑑賞の場として、また気軽に楽しく創作に親しめる美術館として、広く県民の美術に対する眼を養い創作意欲を高め、芸術文化における豊かな活動を引き出し、県民の文化意識の一層の向上に役立つことを目的とする。

(2) 基本的性格

県民のための美術館

生涯学習の場としての美術館

幅広い文化活動の交流の場としての美術館

(以上平成元年3月13日提出の高知県立美術館建設構想検討委員会の答申による)

(3) 高知県立美術館の特長

県内唯一の本格的美術館である。

収集の目玉シャガールは、世界有数のコレクションを誇る。

399席の本格的なホール(能舞台)を併設してホール事業を展開している。

減免対象は全国でもトップクラスである。

(身障者手帳、療育手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、高知市及び高知県長寿手帳所持者、高校生以下無料。)

2 高知県立美術館 10 年間の成果・実績・評価

(1) 高知県立美術館事業評価報告書参照。

(2) 高知新聞記事「検証・県立美術館開館 10 年」参照。

3 高知県立美術館を取り巻く環境の変化

- (1) 県財政の逼迫による予算・人員の減少。
- (2) 指定管理者制度の導入を踏まえた「経営」という観点の必要性。
- (3) 高知市文化プラザ「かるぽーと」のオープン。
- (4) 県民のニーズの変化（受け身の鑑賞型からより積極的な関わりを求める県民の増加）。

4 高知県立美術館の目指す方向性

高知県立美術館の方向性（使命）を次のようにまとめる。特に、県民ニーズの変化など環境の変化、評価報告書の結果を踏まえて下記2点を重点に取り組む。

- (1) 信頼される美術館を目指す。
(県民のための美術館としての役割を果たすために)
- (2) 県民に親しまれる美術館を目指す。
(県民のための美術館としての役割を果たすために)
- (3) アートの楽しみを発見できる美術館を目指す。
(生涯学習の場としての美術館としての役割を果たすために)
- (4) さまざまなアートに触れることのできる美術館を目指す。
(幅広い文化交流の場としての美術館としての役割を果たすために)
- (5) 高知県の生んだ芸術文化を保存・共有・発展させ、県民文化の向上に役立つ美術館を目指す。
(県民の精神支柱としての美術館としての役割を果たすために)

重点施策

***子どもを中心とした教育普及事業の内容を充実させる。**

従来の教育普及担当学芸員とは別に教育普及専任学芸員を置き、教育普及活動を充実させる。

***質の維持向上と来館者数の増加に努める。**

企画展・ホール事業の質の維持・向上を図る。
事業件数の増加より事業内容の充実を図る。
県民の多様なニーズに応える。

5 個別計画（施策）

（１）信頼される美術館（県民のための美術館）に向けて

質の高い作品を収集する。

作品の適正な保存・修復を行う。

企画展・ホール事業の質の維持・向上を図る。

レファレンスサービスの充実を図る。

(2) 県民に親しまれる美術館 (県民のための美術館) に向けて

県民の多様なニーズに応える。

- * マスコミとの実行委員会形式で知名度の高い展覧会を開催する。
- * 戦略的な広報活動を展開する。
(事業ごとに係を横断したチームを組んで推進する。)
- * 高校生以下無料をアピールする。

来館者サービスの向上を図る。

- * 職員間の情報の共有化を図る。
- * 定期的に館内総点検を実施する。
- * 定点観測的なアンケートを実施する。
- * 接遇の向上を図る。

(3) アートの楽しみを発見できる美術館 (生涯学習の場としての美術館) に向けて

従来の教育普及担当学芸員とは別に教育普及専任学芸員を置き、教育普及活動を充実させる。

- * 子どもに美術・美術館に親しみを持ってもらう。
- * 地域の学校との連携、協力を進めていく。
- * 障害者や高齢者も来館しやすい環境をつくる。
- * 移動美術館の開催などを通じて、美術・美術館ファンの裾野をひろげてゆく。

カルチャーサポーター制度の活用を図る。

- * 係別に担当者を置き役割を検討する。

事業件数の増加より事業内容の充実を図る。

- * プログラムの多面的展開を図る。

美術館ホール事業は、出前教室やワークショップを充実させる。

アトライブラリーの機能充実を図る。

(4) さまざまなアートに触れることのできる美術館（幅広い文化交流の場としての美術館）に向けて

県内唯一の本格的美術館として多彩な展覧会を開催する。

美術館ホール及び施設の機能を生かして多様なアートを紹介するとともに、多面的に展覧会を紹介する。

県民ギャラリー、ホールの利用促進を図る。

(5) 高知県の生んだ芸術文化を保存・共有・発展させ、県民文化を向上させる美術館（県民の精神支柱としての美術館）を目指す。

県関係の作家の調査・研究・掘り起こしを行ない紹介する。

常設展を充実させる。

6 課題

限られた人員・予算の中での事業の選択と重点化。

- * 移動美術館事業の開始に伴う、移動ハイビジョンカー事業の見直し。
- * 事業のスクラップ&ビルド
- * 事務処理の簡素化

サービスの向上

- * 開館日の統一